

2020-12-06 教師教育者のための セルフスタディ ー事例紹介②

指定討論

木原成一郎(広島大学)



木原の教師教育者としての自己開示

'onion model'(Korthagen,2005,)

外的要因:
学部改組

転機4
学校教育学部から教育学部に改組(2000)

アイデンティティ:教師教育の研究者

信念:研究中心

能力(知識・技能):教師教育の日英比較:校内研修の調査
行動:海外調査で資料収集

アイデンティティ:教育方法学研究者
信念:研究中心
能力(知識・技能):歴史研究の方法
行動:図書館へ資料収集に動く

内的要因, 省察

転機1
京大大学院時代から湊川女子短大に就職(1984-1989)

内的要因, 省察

大学教員として就職

転機2
短大から広大学校教育学部に移動(1992)

内的要因, 省察

アイデンティティ:体育科教育学研究者

信念:研究中心

能力(知識・技能):歴史研究の方法
行動:授業以外研究室にこもる

転機3
イギリスで教師教育者と紹介される(1997)

アイデンティティ:教師教育者

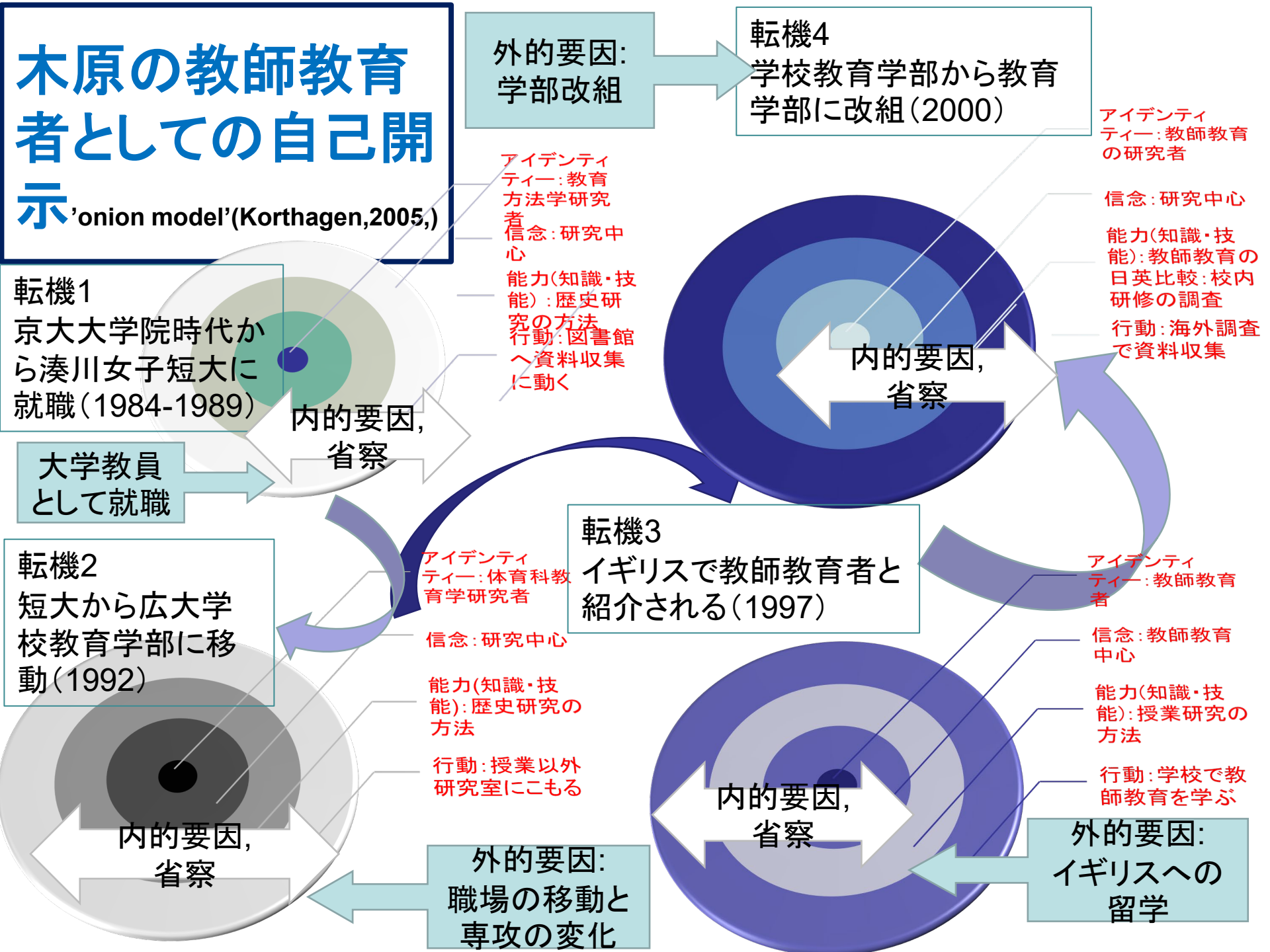
信念:教師教育中心

能力(知識・技能):授業研究の方法
行動:学校で教師教育を学ぶ

内的要因, 省察

外的要因:
職場の移動と専攻の変化

外的要因:
イギリスへの留学



研究者・教師教育者としての教師教育研究

● 転記3: イギリスで教師教育者と紹介される(1997)

- 木原他(2003)「教育実習生の小学校体育科指導の心配に関する事例研究」『日本教科教育学会誌』第25巻,第4号, pp.29-38

KW: concern

教師教育者として教育実習を理解せねば！！

● 転機4: 学校教育学部から教育学部に改組(2000)

研究者として教員養成の日英比較を研究せねば！！

- 木原他(2001)「イングランドにおけるインスペクションの教員養成への影響—ローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に—」『学校教育実践学研究』第14巻, pp. 1-12
- 木原他(2007)「教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要第1部(学習開発関連領域)』第56号, pp.85-91. KW: reflection

教師教育者として省察を導入した教員養成授業の改善をせねば！！

- 木原他(2015)「小学校体育授業に関する教師の学習過程: 研究授業後の協議会における談話分析を中心に」『体育学研究』60,685-699

研究者として校内研修としての体育授業研究の教師教育としての意義を研究せねば！！

- 木原他(2016)「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究-A氏の体育授業を中心に-」『学校教育実践学研究』第22巻, pp.217-227. KW: life history

研究者として教員の生涯にわたる体育授業の力量形成過程を研究せねば！！

セルフスタディへの質問

- ライフヒストリー研究の研究方法論からの示唆
- 「セルフスタディは単なる研究法ではなく研究方法論である。」(武田信子氏の前回のコメント)というのであれば、着手しているセルフスタディ研究がどのような認識論の立場をとって、どのような研究法を採用し、何を研究の目的とするのかを整理し、自覚する必要があるのではないだろうか。

「ライフヒストリー研究の研究方法論」(引用者が作成)

参照: 高井良健一(2015)『教師のライフストーリー』勁草書房, pp.83-88.

	認識論	研究法	研究目的
実証主義アプローチ	本質主義(真実は一つ)	仮説検証型	教師の生活や仕事の歴史的、社会的
解釈的客観主義アプローチ	本質主義(真実は一つ)	帰納的な推論	事実を解明しようとする
対話的構築主義的アプローチ	関係論、構築主義的認識論	研究のプロセスの透明性と語りの内部一貫性	教師の生活と仕事のリアリティーと可能性に接近する。

セルフスタディへの質問

- 「特徴①: 教師教育者の実践の協働的発展

教師教育のセルフスタディとは教師教育実践の改善と向上のための教育理論を生む研究である。『2020-10-04 教師教育者のためのセルフスタディ 趣旨説明 配布資料スライド19』

- どのレベルの教育理論を生み出すのか。認識論や研究法、研究目的が明示されないと、産出された知見が何を新たな教育理論として生み出したのかが整理されず、学界に理解されないことになる。

セルフスタディへの質問

- 「特徴①:教師教育者の実践の協働的発展

他者(他の教師教育者や学生, 文献等)との相互行為を主に質的方法を用いて記録し, その記録を元に協働的に解釈し, 一般化できるレベルの新しい気づきを得る。』『2020-10-04 教師教育者のためのセルフスタディ 趣旨説明 配布資料スライド19』

- 認識論の立場、例えば「対話的構築主義的アプローチ」をとる場合は、「一般化」される知見を生み出すことを目的としない場合もあるのではないだろうか。

セルフスタディへの期待

- 『特徴①:教師教育者の実践の協働的発展
焦点化されるべきものは、教師教育者の自己(the self)である。つまりその教師教育者が「何者なのか」がどのようにその教育実践につながっているのかについて、より深いレベルで協働的に考察・探究する。』『2020-10-04 教師教育者のためのセルフスタディ 趣旨説明 配布資料スライド19』
- 教師教育実践を担う教師教育者自身が成長し力量を向上させなければ、教師教育実践の改善はあり得ない。そういう意味で、「教師教育者の自己(the self)」を研究対象として焦点化することが、教師教育者自身を成長させる研究の蓄積を生むことに期待したい。

山内氏・大西氏の発表へのコメント

- 「実務家教員」としての教師教育者への期待

: 同僚の実務家教員との8年の経験から、教師経験のない研究者教員にできないことは、研究授業の観察や指導助言で、子どもの学習の見取り、学習成果の背景にある子どもの生活の理解を具体的に語れることだと思われる。

- 報告への違和感

: 「社会系教科におけるカリキュラムの変遷とマネジメントの実際」(1年前期開設)の「②授業の構成」の教材に、ご自身の授業研究の足跡が見当たらないこと。ご自身の14年間の現職教諭経験の中での、「社会科教育課教育観」の形成や変容が具体的な授業研究を教材として語られることが期待される。

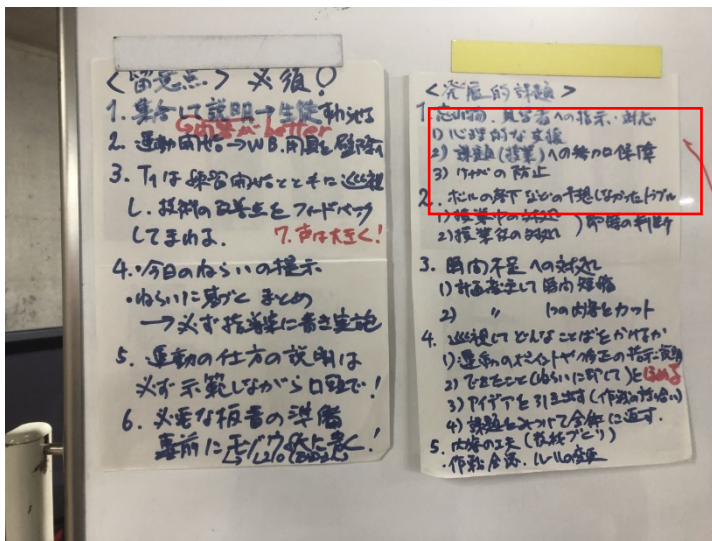
佐々木氏の発表へのコメント

- 「ジョン・ロックランとアマンダ・ベリーの事例」への共感とSelf Studyの意味の実感
- 「初等体育科学習指導論」(初等教育教員養成コース、2年生後期、選択授業、13名受講)、教材研究としての実技練習と模擬授業を実施。
- 2020/11/17: ボッチャ(ボール運動)の模擬授業(30分を3人の教師が3回交代して実施)で、体育館シューズを忘れてきた受講生(生徒役)が発生。教師役3名のこの受講生への瞬時の判断と指導が異なっていた。

A: すべらないように靴下を脱がせ、練習のみ参加し試合は得点係を指示。

B: 裸足のまま試合参加を認めた。C: 靴下をはき練習参加。試合は得点係。

- 木原は、教師役は生徒役の安全確保のため、Aのように即時対応すべきと説明。



木原が模擬授業後の反省会で学生に板書した内容。これらは、木原が大学の体育実技科目で指導する「実践知」としての pedagogy と考えられ、これらの「実践知」を学生に語る意味を自覚できた。つまり、「教師教育者は、自らの実践の中で直面した戸惑いや緊張を学生に提示する必要がある。(ロックラン, 2019)」という指摘が木原の胸にすんと落ちた。